

## 「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部3年 松任駿

## ① 学習成果

今回の短期留学に参加して最も成果が得られたのは、留学前に目的として掲げていた中国語の語学力の向上と、現地の人々との交流です。留学中には国立台湾大学の学生と交流したり、飲食店などで店員と会話したり、また、台湾現地の方々がよく話しかけてくださったので中国語を使う機会に溢れていました。学んだことをすぐに実践できる環境にあったことが、語学力の向上に貢献したのだと思います。日本とは違い常に中国語が聞こえ、中国語で話しかけてくれる人がいるのでその分吸収できる中国語が多く、教科書だけでは学ぶことのできない自然な言い回しや現地の言葉を多く学ぶことができました。また、中国語話者に触れている時間を増やすために積極的に行動して話す機会を作り、主体的に考えて会話することが大切だと気づきました。3週間の短期間でも意識すれば、語彙力が格段に増え、自分の話したいことを表現できることが多くなりました。言語が通じてコミュニケーションが取れることが楽しいと感じ、今後も新しくできた友達を含めて中国語話者と関わり続けて自分の語学力を向上させたいというモチベーションを獲得できたという収穫は大きかったと思います。

また、実際に3週間生活することで日本と台湾の文化や習慣の違いを多く発見できました。また、授業内で歴史を扱ったことから自分で歴史を調べてみたり、台中に行った際に話している言葉が台北の方と違うと感じたので、方言について台湾の人に聞いてみたりもしました。このプログラムを通して、台湾について興味を持つようになり、また日本との違いを知ることに楽しさを感じるようになりました。異文化理解への関心が今まで以上に高まり興味のあることが増えたので、本当にこの派遣に参加してよかったと思っています。

## ② 海外での経験

台湾に来て一番強く感じたのは台湾の人が優しいことです。道やおすすめの飲食店を聞いても嫌がらずに教えてくれ、飲食店ではサービスされることが多く、宿泊したホテルではスタッフの方が宿題を教えてくれることもありました。日本人であるからなのか、理由はわかりませんが台湾の方は海外から来た人に非常に温かく接する印象でした。そのおかげで3週間を楽しく無事に過ごすことができました。

また、国立台湾大学の学生は英語の能力が高く、自分も勉強しないといけないと焦りを感じました。また、学生の方と趣味や進路や就職など様々な話をする中で、海外留学やインターン、学園祭への参加など自分のしたいことに積極的に参加している学生が多いと感じました。英語や中国語をもっと勉強して、経験したことがないことも挑戦していこうと、学生達にいい刺激をもらったと思います。

## ③ プログラム内容

午前中は中国語の単語や文法の授業でした。ただ単語や文法を覚えるのではなく、それらを使って会話することがメインの授業であり、授業内は全て中国語で会話を行いました。扱う教科書の内容も台湾に関するもので、語学の勉強をしながら台湾について学べる内容となっていました。午後には、フィールドトリップや様々なアクティビティを行いました。龍山寺や大稻埕に出かけて歴史を学びながら観光したり、切り絵や麻雀をしたりして台湾の文化を体験しました。他にも英語で台湾のお茶や社会問題などについて学ぶ授業もありました。最終日には、3週間の滞在中で学んだ中国語を用いてプレゼンテーションを行いました。

これら全てが国立台湾大学によって綿密に用意されていると感じられ、中国語を学ぶことはもちろん、台

湾の文化、社会、歴史を学ぶことができるものとなっていて大変有意義なものでした。

④ 進路への影響

私は将来、食品や薬品のメーカーに勤務したいと考えています。渡航前は、自分自身が将来海外へ赴任することがイメージできず、海外出張などに対して後ろ向きなイメージを抱いていました。しかし、今回このプログラムに参加して海外の人と関わる楽しさややりがいを感じ、将来の選択肢を新たに増やすことができました。また、大学院に進学した後のダブルディグリープログラムや部局間留学なども視野に入れて、今回得られた貴重な経験をここで終わらせず、継続して中国語の勉強を行っていきたいと感じた。